

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471400182	事業の開始年月日	平成14年11月1日
		指定年月日	平成14年11月1日
法人名	有限会社 仙口		
事業所名	グループホーム みやまの里		
所在地	(258-0001) 神奈川県足柄上郡松田町寄4 1 6 5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	6 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成25年10月5日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpjDetails.aspx?JGNO=ST1471400182&SVCD=320&THNO=14363
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と職員が一体となって明るい家庭的な雰囲気作りを行います。 ・利用者が自分らしくゆっくりと楽しく自由に快適に過ごせる様に努めます。 ・利用者の自立への気持ちを大切に心身機能の維持・回復・増進に努めます。 ・町内会、老人クラブ、小中学校、保育園等の行事への参加を通して地域連携を図り、地域に根付いたグループホームづくりに努めます。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成25年11月6日	評価機関 評価決定日	平成25年12月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は小田急線の新松田駅からバスで約25分中津川上流の山間部にあります。元民宿を営み、現在のグループホームに事業変更し開設後11年になります。開設当時はグループホームがまだ少なく「人、ひとりの真の幸せとは何かを考え無我夢中で走ってきた」と代表は振り返っています。</p> <p><優れている点> 一軒の大きな家に一緒に住んでいる家族の一員として、愛情に支えられた笑顔が印象的です。施設という雰囲気を微塵も感じさせず、利用者は互いの部屋を行き来し、互いの生活を実感している様子が見られます。玄関の施錠は夜間を除いてしておらず、入居者は自由に外に出ることができます。近所の方の家に立ち寄りお茶をいただいたりして交流しています。地域の幼稚園のお子さんとも、ひな祭りやお月見会、卒園時のお別れ会などホームの大広間を利用して交流を重ねています。</p> <p><工夫点> 災害時の避難の際に持ち出す食料や避難時に必要な品物はすぐに持ち出せるように、目に付くと場所に大きなリュックサックに入れてあります。中に入っている品目を大きく表示して、一目でわかるように工夫しています。買い物は一緒に出掛け、利用者自身に千円ずつ持ってもらい、自分で選んでレジを通してあります。レジの方も心得ていて、過不足時には本人の尊厳を維持しながら対応してもらっています。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みやまの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	職員全体でサービス向上、事業所のあり方を理念を共有しながら実践につなげてゆく日々を具体化していく取り組み。	理念は、廊下壁面の見やすいとことに掲示しています。職員は理念のもと、利用者支援の実践の中で生かすようにしています。「利用者はおお客様であり、見てあげるのではなく、お世話をさせていただく」というスタンスで実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会へ加入して行事へ参加。どんどん焼き・若葉まつり・3月寄地域の祭典には毎年みやまの里へ立ち寄る100人以上の豚汁のサービスを全員で参加しています。	地域自治会の行事の祭りやどんど焼き、草刈りなどに参加し交流しています。地元幼稚園運動会を見学したり、ひな祭りには大広間にたくさんの雛人形を飾り、幼稚園児を招待して交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	寄幼稚園や地域の老人をまじえ、ひな祭り・お月見等の施設の人々の支援を活かしている。毎年利用者の方を楽しみにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	役場職員、地区長、民生委員、家族と一緒に情報交換や施設のサービスの情報を行い向上に活かしています。	自治会長、民生委員、消防署の方、看護師などが参加し、今年度は3回実施しています。内容は、ホームからの報告や防災などをテーマにして、参加者から意見をいただいています。	日常の生活風景、作品や地域との交流場面等を紹介したり、ホームとして困っていることなど身近なところから意見交換し、気軽な感じで臨める様にすることで定期的に開催することも期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	松田町担当者、地域密着型施設サービスとの連携を持ちながらケアサービスの取組みをし協力関係を築いています。施設からは相談等がある場合はその都度職員に対応しています。	生活保護の方が入居していることもあり、毎月の近況報告など連絡を取っています。その他、職員のスキル向上のための外部研修の案内が市からあり、必要に応じて参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	禁止の対象になる様な事のないサービスを提供。朝8時から夜8時まで出入りは自由になっており鍵はオープンにしてあり開閉の音の注意はしっかりと見守っています。	身体拘束禁止のポスターを廊下に掲示し、職員や利用者にもわかるようにしています。玄関入口は日中は常時開放しています。利用者が出たいときには職員が見守り、安全を確保しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は利用者の虐待はありません。利用者同士も見過ごすことのないよう防止にもミーティングをしながら努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者へ職員は日常生活支援で成年後見人、社会福祉協議会の方々と毎月話し合い文章等でも活用する支援をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約その他の書類等は施設を得て理解、納得の上で業務を努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族、成年後見人の方々と意見や報告、要望等を話し合い運営に反映させ進めています。	家族と疎遠な方が多く、市の福祉課や成年後見人と連携しています。生活状態や心身の観察内容を報告したうえで利用者状況を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日職員、管理者と話し合い提案を聞きそのつど実践につなげている。業務日誌等を記録しています。	日々の実践や出来事の中で、意見を聴き、困ったことがあればその都度解決に向けて話し合っています。先送りしないでその場で立ち止まり、振り返りながら共に考えて進めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規定を守り各自が向上心をもって職場の環境や条件を満たす様努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者以下全員に会合や集会や研修、施設内の研修を受けトレーニングしていきながらケアにあった実際の力量を把握し進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	南足柄・山北町・大井町といったグループホームの施設の管理者との交流。施設入所者との訪問の受け入れ等をし交流する機会をつくっています。サービスの向上に役立っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人ニーズに合わせ不安や要望に耳を傾けながら本人との関係づくりに努めます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の方に常に連絡を取り安心してお預かり出来るよう努め良い関係を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の生活を知り施設での利用のサービスを計画しいろいろな面から支援した対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員、本人とは1回1時間以上は暮らしを共同して話し合いや物作り、娯楽（テレビ・本）等で支え合える関係に努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族を支援される方として本人の絆を大切にし共に支える関係とし家庭への訪問なども月1～2回施設長との交流があります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人や地域の方々と知り合い訪ねて下さり話し合ったり食べたりと良い関係を持ち支援に努めています。	近所の農家の方からは「〇〇さん、元気？」と手を振ってもらったり、近所の方には気軽に声をかけてもらい、ふかし芋をいただいたり立ち寄ってお茶をいただいたりしています。ホームが地域の方との日常的なコミュニケーションの場になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事は各利用者の個室へ集まり一緒（職員）にしています。部屋は変えながらテレビの時間も個室を利用するなどしています。散歩（全員）買物なども2人ずつ行き支え合う様支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了した家族との関係は何年も続いており時々ホームに来て利用者さんとコミュニケーションを計てくれます。大切な相談者であり支援者でもあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりがそれぞれやりたい様な暮らしをしているか絶えず様子を観察しながら寄り添い意向が困難な場合は本人や家族と検討しつつ支援をしています。	日々の買い物（食材や日用品等）には利用者も同行しています。その際は、できる限り本人の意図を汲んだうえで、実際お金を持つようにして、品物を選び自分で支払えるように支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活や暮らし方や環境の違いをサービスの利用の経過を把握しながら本人が暮らしやすい様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝の食事から始まり生活のリズムを取りながら体調の変化を把握しその人の出来ることを日課として一日を過ごしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	施設とその人らしい生活を続けるための計画を作成し本人や家族の意向をまじえ全員で現状に即した介護の計画を作成しています。	利用者本人の気持ちや思いを察し、歩行や排泄など一段ずつ上がるつもりで自力を促し、職員が丁寧に誘導しています。職員は日々の様子を計画作成担当者に伝え情報共有をして、次の計画に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を記入し報告し結果を把握し気づきながら工夫をし情報を共有し見直しながら実践へ反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりを支えるための外食や買物や温泉入浴と施設内では扱われない施設やサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方々との交流は毎日続いている。（農業者の方・近所の老人）本人の心身の力を発揮出来豊かな環境で安全な生活をして楽しんだ支援だと思っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月2回は往診があり1年に1回の健康診断を実行しています。開業の時から同じ医師との連携はすばらしいです。	内科は月2回の訪問診療です。歯科検診は週1回、入れ歯の治療や口腔ケアです。口腔ケア研修は管理者と職員が受けています。数ヶ月前、病院で利用者が余命1ヶ月と宣告され、ホームに戻り医師との連携で、今は元気に皆で散歩へ出かけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常に変化を医療等の報告は主治医に知らせ相談し適切な看護が受けられるように支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の元で入院・退院の情報交換をし病院、家族、本人と協同しながら連携を取っています。退院を待ち栄養や体力増進、生活の支援は注意深く見守っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した時早いうちに家族、医師との話し合い施設で出来る事を利用者のニーズに合わせそのつど話し合いながら対応を検討し支援に取り組んでいます。	これまでも看取りを経験しています。重度化の場合は24時間対応の医師と連携をとり、福祉事務所の方と相談をしながら対応を進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署の応急手当実習に毎年二人参加をしています。口腔ケア年1回職員実践研修参加。すべての職員に初期対応の訓練を実践力につなげた支援。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防署の届出、検査、2回の職員、利用者全員の避難訓練実施。当施設は地域の災害避難場所に指定されています。施設の中に災害用具が常備してあります。	地震・火災はマニュアルに基づき実施しています。夜間の避難対応には玄関から避難場所まで足元を照らすセンサーを数ヶ所設置しています。持ち出し用ザックは1、2階の階段脇の2ヶ所に用意し、表に中身が明記されています。	視聴覚障がい・失語症・身体の不自由な利用者には、誰でも避難誘導できるように具体的な支援の方法を検討されることも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー保護は関する指針を作成し提示し神奈川県に登録を行っている。一人ひとりの人格を尊重し言葉使いなどの対応には常に気をつけています。	毎日利用者の全体の症状をよみとり、「～したら良いか・～が考えられるだろうか」など気持ちを汲みとる声掛けをしています。また一日が満足感や豊かさに繋がるように、日頃からゆとりを持って対応するように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望は思うように心がけ決定していくよう全員で働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	天候の良いときや誕生日など日々の暮らしとは別に一人ひとりの希望に沿った支援も取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみやおしゃれはどの利用者さんにもその人らしい形で支援をしています。どなたも綺麗な色を好まれます。外出には必ず着替えられます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の物は必ず取り入れ昔ながらの作り方で提供します。食事やおやつも施設内の手作りで提供します。職員と利用者と一緒に準備をして一緒に食べていつも完食です。	施設内の菜園、近所から届けられる旬を取り入れた家庭的な献立です。天気の良い日は弁当を買ったり、おにぎりを持って外で食べています。外食は車で2人ぐらいで日替わりで出掛けています。冬の季節は交替で各部屋に集まり一緒に食事を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立には栄養のバランスを考える。摂取総量も一人ひとりの状態を把握し残量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者の一人ひとりの状態にあわせ力に応じたケアを行っています。時折利用者の定期的な検診を行っています。歯医者への往診で口腔ケアを実践し身につけています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	おむつ使用の利用者も失敗しても傷つかない様にトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っています。	「トイレに行きたい気持ち」を大事にしています。ポータブル使用を止め、その人にあったパットを自分で持ち、トイレまで歩く練習をしながら排泄の支援をしています。便失禁の場合は昼夜問わず入浴をし、清潔で気持ちよく過ごせるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄の状態にあわせて食事、活動を見直しメニューを工夫して下痢や下痢止めなどの薬の使用に注意しながら医師の指示を仰ぐ。運動、散歩などを進めて支援していきます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回決まっているがオムツや体調の変化で体を汚したりした場合は夜中でも入浴で体を清潔にし安らかに眠ってもらう。利用者にあわせた入浴の支援をしています。	入浴の時は、自分で着替えを持っています。一人で入浴し、手の届かないところや見守りの支援をしています。浴槽にはリフトの設置をしていますが、現在は利用している人はいません。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	布団の清潔や元氣干し等は常に心がけ夏は冷房ばかりでなく窓を開閉しながら温度調整し冬は電機毛布を使用したり湯たんぽ等を使用して部屋の乾燥のない様にして安心して気持ち良く眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全員が薬の内容を把握し早見シートを用意しておき服薬による副作用など注意し服薬は利用者各自そのつど手渡しきちんと服用をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	行動の中に生活歴や習慣などが出ているのでその人らしい役割や楽しみ方が出ているので共同での散歩や遊びの中で全員の張り合いや気分転換等に役立てる支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者一人ひとりのリズムで月1～2回の外出（10km以上）をし買物やスーパーへ出掛ける。地域での散歩で声掛けに協力してもらっています。	施設の前は丹沢山地南側の震旦郷山や中津川の広い河川敷もあります。天気の際は全員で自然に囲まれたその周辺へ散歩に出かけています。月に数回、利用者2人ずつ交代で車に乗り、花見や町中のネオンを観たり、買物や回転寿司などの外食に出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自動販売機やスーパーでの買物は一人ひとりの希望や力に応じてやっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	そのつど必要に応じて支援しています。手紙等は施設内でも本人の名前宛だったら本人に開封してもらっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間には行事を行った写真や馴染みの絵、本人の工作等、季節の花々を部屋やローカに飾る家庭のあるのままの支援をしています。	1階は民宿を経営しており、玄関や幅の広い階段、大広間、食堂などを共用しています。廊下などに幼稚園児との交流写真や季節行事の笑顔の写真を掲示しています。食堂のテーブルには生花が添えられ、陽ざしも射しこんで穏やかな雰囲気です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各居室が広い（10帖近い）ため気のあった人が自由に出入りして過ごしています。部屋では工作をしたりテレビを見たり本人達のあった事をして過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人の使い慣れた物や好みの物が置かれ居心地の良い使用の仕方で過ごされています。	居室は和室の6畳2部屋と10畳4部屋です。ベットやエアコン、カーテンなどを設置し、テレビなどが置いてあります。趣味の手工芸を利用者と一緒に作っていたり、オセロゲームを楽しめるよう支援しています。掃除は毎朝職員がしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者が自由に出来ることや分かることを活かして自立した生活が送れるよう危険防止や環境を見極め工夫して支援をしています。		

(別紙4(2))

事業所名 有価と無価の区分と外資の関与

作成日: 平成26年5月12日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	問題点としては、毎日の同じ業務の中で同じ意見ばかりです。変った意見を積極的に言う。	変化のある話し合いを1回以上行うこと。	その場で話し合うよう取り組みたい。	1ヶ月
2	12	同じく各自等しく、向上心を持って働くよう努める。	就業規定と守り働きやすい職場にしたい。	毎日の大切な職場であることと意識を話し合い取り組む。	12ヶ月
3	19	家族が無一人の子供としかできず、その料を職員が支えて行くことが大切であるので関係を整えて行くこと。	家族の費りに月1度程度外出し買物など一泊し、外食など楽しむよう努める。	月1度全員で外出させ、買物、外食等に取り組む。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

足柄上部
松田町役場
平成 26.5.12 收受
第 号